



「しばた」
を知って楽しみ、
「新しいしばた」
の町をつくる新聞

菊水 40周年 ANNIVERSARY SINCE 1972 あの頃から。

ふなぐち菊水番しほり

そろそろ、
大人の旨さが
わかってきた。

菊水酒造株式会社
お問い合わせお客様相談室
0120-23-0101 FAX 0120-23-5254
〒957-0011 新潟県新発田市島湯750
受付時間/平日10:00～17:00 (土・日・祝日を除く) お酒は20歳になってから。
www.kikusui-sake.com

最大30万円の補助で大人気、 リフォーム補助金2次募集開始

7月1日(月)から住宅リフォーム支援補助金の2次申請受付が始まる。1次申請時は先着順としたことなどにより混乱が生じたため、2次募集は抽選制となった。

この事業は近・片山市長時代から共産党市議らが実施を粘り強く要望し続けたもので、二階堂市長になって5千万円の補助予算をつけて昨年初めて実現した。その結果、申請件数は498件でリフォーム費用総額は約6億300万円、補助予定額は約7千300万円だったのに対し、抽選によって交付されたのは349件でリフォーム費用総額は約4億100万円、補助額は約4千700万円、経済効果は8倍と大きかった。そこで今年も募集枠(予算)を増額した。

事業の趣旨は、市民の住・生活環境を快適にするにも、市内中小業者の仕事を増やして地域経済を活性化させることで、税込10万円以上のリフォームを対象とし、工事費の20%、上限20万円が補助される。さらに今年度は、子育て3世代同居世帯障がい者もしくは高齢者のいる世帯ではさらに10万円上乗せされ、最大で30万円の補助が受けられる。県内30市町村のうち28市町村で実施されているが、補助最大額は佐渡市の50万円(20%まで)、阿賀野市の30万円(20%まで)に続き、新発田市など3市町村が20万円(20%まで)と続き、他は10万円が上限だ。新発田市は金額も多いが、何より上乗せがあるのが魅力で、大きな人気につながったとみられる。現に、1次申請時の上乗せ申請は69件、全体の53%に上っている。ただし、1次申請時の上乗せ枠は30件だったので、39件が予定枠をオーバーし、上乗せ分が受けられなかった。

先着順を抽選制に変更し、 混乱を回避し公平性を確保

1次申請時は申込が先着順であったため、受付初日の4月15日(月)、開庁前の地域整備庁舎には約130人の行列ができた。早い人は2日目の夜から並び始めたため担当課は庁舎ロビーを開放、トイレ使用や夜間の防寒対策などの便宜を図った。また、余りの人気ぶりから、1次申請枠80件程度とされていたのを急遽130件(上乗せ枠は10件から30件)に増やすこととなった。しかし、行列に並ぶことを諦めた人も多く、市の発表によると70人程度は申請を諦めて帰る、質問・苦情は電話で25件、書面で7件のぼった。

その多くは「代理申請・複数申請を認めたら先に先着順にしたため、業者が仕事を早くから並んでいた。そのため一般の申請者が受けてもらうためには相当早頃から並びねばならず、年齢や個々の事情を考えるとそれは難しく、結果的に不可能であり、不公平だ」というものだ。

「混乱を引き起こしたことはまことに申し訳ありませんでした。2次募集では改善できる点は改善し、市民の皆様のご要望にできる限りお応えしたいと思えます」と、市建築課・諏訪龍一課長は話した。また、市議会でも質問を受けた市長は「大反省している」と陳謝し、改善を約束した。

そこで2次募集は抽選制とし、また多くの申請が予想されることから、6月議会でも2千万円の補正を提案し、抽選制とはいえないべく多くの申請に対応すべく準備した。先着制とした大きな理由は、昨年度の受付開始が遅く、しかも審査に長い時間がか

かったため、「早く改修したい」という利用者の要望に応えられなかったことに加え、工期が集中することによって工事進行に支障をきたすことなどの反省に立ったものだ。しかし、公平性を担保する目的で抽選制に戻したことで同様の問題が発生するのを少しでも抑えようと、受付期間を7月1日(月)～7月12日(金)と短縮し、土日も受け付け、さらに受付時間も平日は午後6時まで、土日は午後5時15分までと延長した。リフォームで思わぬ効果も。

市内緑町に住む福田栄司さん(70)は奥さんが身障者となり、右半身と言葉が不自由なため自宅に介護している。リハビリで一時は杖をついてゆっくり歩けるようになったが、肺炎を患って寝付き、また歩きづらくなった。手を引いてトイレに連れて行っても、狭いために用を足すのに時間がかかるとを嫌い、ほとんど床に就いた暮らしとなった。そこで、今回の補助制度を知って一念発起、トイレを広くして二人が自由に動ける空間を確保し、手すりなどを付けた。その結果、今まで20分近くかかっていた用が5分ほどに短縮、奥さんは福田さんに介助されながら歩いてトイレに行き、用を足すようになったという。(写真1)



1 奥行きを60cm広げたトイレ
2 庭はバラの花でいっぱい

市内緑町に住む福田栄司さん(70)は奥さんが身障者となり、右半身と言葉が不自由なため自宅に介護している。リハビリで一時は杖をついてゆっくり歩けるようになったが、肺炎を患って寝付き、また歩きづらくなった。手を引いてトイレに連れて行っても、狭いために用を足すのに時間がかかるとを嫌い、ほとんど床に就いた暮らしとなった。そこで、今回の補助制度を知って一念発起、トイレを広くして二人が自由に動ける空間を確保し、手すりなどを付けた。その結果、今まで20分近くかかっていた用が5分ほどに短縮、奥さんは福田さんに介助されながら歩いてトイレに行き、用を足すようになったという。(写真1)

トイレ増改修費約60万円のうち約12万円の補助を受ける福田さんは「10万円ほどの補助ですが、私ら年金生活者には大金、本当にありがたいことです。上乗せ枠はすでにいっぱいでもうありませんでしたが、行政からはいろいろ助けていただいていますから、贅言は言えません。なしろ、この制度がなかったら、リフォームに踏み切れた

かどうかも分からなかったんですから」と感謝する。改修したことで「また歩くことに意欲を見出したので、少しずつリハビリを進め、出かけることが好きになった妻と、あちこちに行けるようになった」と、希望を持てるようになったのが何より嬉しいという。「今は完全主夫、妻の面倒を見ながら家事全般をこなしています。こうなってから初めて妻の大変さが分かりました。困っているのは毎日献立を考えること。たくさん食べて、たくさん歩いてもらいたいのですが…」と笑った。

奥さんのベッドは1階の庭に面している。折しも奥さんの大好きなバラが満開の花が咲くのを楽しみにしている奥さんのために、手入れはかかさないといい。(写真2)

コラム

図書館で出合いを



五十公野公園・あやめ

▼新発田駅前に子育て支援、主に子どもなどを対象とした一般図書館などが入る複合施設の建設計画が明らかになった▼以前から、現図書館は狭く使いにくい、冬は寒くて夏は暑い、食事ができないなど、評判は芳しくなかった。現図書館は改修し、歴史的なものに特化したいという▼図書館改修の要望は10年も前からあったが、資金の目途が立たず、ついで具体化しなかった。しかし、国の補助金制度新設を機に、念願の計画が動き出した。実現すれば素晴らしいことだ▼上手に運営すれば図書館は最も集客力のある公共施設で、そこに子どもが冬でも遊べる空間が備われば鬼に金棒だ。新発田市では「いきいき館」に同様の施設があるが、老朽化が激しくて耐震化も難しいほど聞く。早急に新施設を整備しなければならぬ▼最近、図書館を含む複合施設は、「賑わい創出」をめざすまちづくりの核として各地で建設され、大きな成果を上げている。成功のカギは施設が明るく広く快適であり、新しい知識・娯楽との出会いのみならず、ワクワクするような人との出会いがあること。それを演出できるすぐれたディレクターがいることだ▼成功事例はいくらでもある。しっかりと研究して、スピード感をもって、今度こそ使い勝手のいい施設とし、市民の暮らしを豊かにしてほしいと願う。(阿部聡)

駅前夢の複合施設を建設 子育て支援、一層の強化へ

JR新発田駅前に子育て支援施設、それに連なる子ども・一般図書館などを核とした複合施設建設案が、6月3日（月）の市議会全員協議会で市から明らかにされた。この計画は同時に示されたまちづくりのビジョン「中心市街地活性化基本計画」の「プロジェクト」であり、長年の懸案であった駅前遊休地活用の現実的な解決策でもある。本紙では「子育て支援」のみならず、市長の掲げる新市庁舎建設の付加価値である「中心地活性化」「賑わい創出」「交流促進」という狙いからも、また、現在の図書館が老朽化し、デザイン性は高い

約10年前から議論や請願、しかし財源が確保できず進展せず

なぜ今、駅前に「子育て支援施設、それに連なる子ども・一般図書館などを核とした複合施設建設」なのか。また経緯を追う。始まりは平成12年の「旧中活」にさかのぼり、15年の「駅前土地区画整理事業」、18年の「民活導入可能性調査」を経て、22年に観光案内所や図書館機能を持つ「インフォメーションセンター建設の請願」を市議会が採択するなど、長年議論されてきた。市長も選挙時に「駅前に中高生の居場所作り、観光案内所のある複合施設を作りたい」と訴えてきた。

図書館については以前から、閲覧・学習スペースが少ないことによる使い勝手の悪さ、多量の歴史的な蔵書資料を持ちながら展示・保管はもろろん、研究スペースのない現状の改善が求められていた。

今年2月議会では中村功議員から「図書館の老朽化の改善、整理・展示スペースが必要」との質問がなされ、大山康一教育長は「通路や事務室などで資料があらわれている状況で必要性は認識している」としてながら

ものの使い勝手に劣ることからも、必要な事業として先進地の成功事例を多数紹介して来た。6月市議会では基本設計などの事業費約5千800万円の補正が提案された。よりよいプロジェクトとするため、市民代表の市議会では運営方法も含めて徹底的に議論してほしい。「中心市街地活性化基本計画」については6月20日（木）から市ホームページなどで公開され、パブリックコメントを募集している。そこで、こちらを見ていただくとして、本稿ではなぜ今、図書館なのか、子育て支援施設なのかを検証してみたい。

も、「図書館整備は国庫等の補助がなく（財源がないため、整備を）提案できない状況」と答弁した。

つまり、必要性は10年以上前から訴えられてきたのだが、財源がないため具体的な計画を立てることができなかったのだ。

極めて有利な補助金新設により
4億円弱、市負担約17%で建設可能に

平成25年度に新たに設けられた「地方都市リノベーション事業」。これが財源の決定打になった。簡単に言うと、人口集中地域で駅などの公共交通から1km以内で、さらに都市機能を高める施設建設（用地取得費含む）に対し50%の国庫補助交付を行うというもの。ただし、対象は医療・社会福祉・子育て・教育文化施設などに限られる。まさに新発田市の子育て支援施設・図書館はこの対象となる。これに27年度末事業完了が条件の「合併特例債」を合わせると、市の負担はごく少なくなると見られる。

JR新発田駅前の遊休地は民有地を含めて約6千500㎡、市の計画ではここに子育て支援施設、それに連なる子ども・一般図書館、その周辺に可能な駅前立地を生かして

た観光案内所「食の循環によるまちづくり」を推進するためのキッチン・スペースなどを付設したいとしている。

建設費が約22億5千万円（6月3日市議会全員協議会答弁）とする「リノベーション事業交付金で、50%の11億2千500万円、合併特例債で10億6千900万円、市の初期負担は約5千600万円となる。後年度負担分は約3億2千900万円。この計画を実現するための市の負担は合計約3億8千500万円、建設費の約17%と試算される。また用地買収も基本設計も終わっていない段階での試算なので、実施時は当然金額が変わると予想されるが、この程度の負担で子育て支援施設と子ども・一般図書館などが新発田市にできるのであれば、投資効果は極めて高い。

民間棟は検討段階であるが
官民連携して交流人口増をめざせ

現在想定されている建物は、はつきりしていないが2棟ある。1棟は子育て支援施設、それに連なる多目的スペースを持つ子ども・一般図書館などのいわゆる行政棟である。もう1棟は民間企業が建設するもので、カフェやコンビニ、さらに若者向けの商業施設・居住施設の入居を想定して準備を進めている。いわゆる民間棟だ。補助率は低いものだが、これも国のリノベーション事業補助の交付が受けられるが、それと同額の市負担も発生する。しかし、こちらはまた事業の全体像が見えないため、詳述することができない。とくに、以前市が声をかけた新発田商工会議所の入居は、常議員会や「新発田まちづくりビジョン」策定会議を開いたり、独自の研究・議論を重ねて

いるものの、6月19日（水）現在、結論は出ていない。市と民間経済人の代表ともいえる会議所が協力し、さらには市民参加型のまちづくり実現のために、前向きな結論が待たれる。

民間棟で注目されるのは「若者向けの居住施設」である。市内の大学生等を想定しているというが、実現すれば全国的にも画期的で、「まちなか居住人口増」につながるうえ、学生と市民の交流が盛んになって活性化すると考えられるので、大いに期待している。

子育て支援の「子どもセンター」は
他自治体のファミリーに積極的に開放を

行政棟延べ床面積約6千㎡の中心は子育て支援を行う仮称「子どもセンター」である。この機能については熱く市子ども課が中心になって検討されているのであろうが、「まだ発表できる段階でない」（市子ども課・小野伸子課長）という。子育て支援関係では、現在いきいき館に「親子レイルーム」「子ども発達相談室」「喫茶ルーム」などがある。しかし、建物の老朽化が激しく耐震診断もしていない状態なので、早急な機能移転が求められている。現在の機能を何を加えるのか、また併設される予定の子ども向けの図書館のような連携が取れるのか、他の成功事例を参考に検討すべきである。例えば、今までの取材からいうと、レイルームはハード的には0歳から小学生まで年齢別にゾーンを分け、冬場でも走り回れるだけの十分な広さを確保しなければならぬ。発達相談室や育児サポート機能、親子の交流スペースも必要で、授乳室障がい者向けのトイレの設置は必須である。また、他自治体の親子も積極的に受け入れるべきだ。

なお、いきいき館には、子育て関連機能だけでなく、高齢者福祉関係、障がい者福祉関係、社協関係、老人クラブ事務局などが入居している。これらをどう扱うか、そもそも計画されたらなければならない。

介護老人福祉施設 陽だまり苑 新発田市岡田 1746-1 TEL.0254-20-3800	(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761
複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発市諏訪町1-10-38 TEL.0254-24-1111	(株)ワゴードライ 新発田市佐々木 3445 TEL.0254-27-2261

かして 旬を
割烹 志まや 城下町の味処 次郎八
新発田市御幸町1丁目1-1 ☎(0254)22-2102(代)
☎(0254)26-1515

四季折々の美味
割烹旅館 多奈可や
新発田市稲荷岡 2066 ☎0254-41-2013

はな やす 新発田市場
24時間受付
■斎場 / 新潟県新発田市荒町 1521 ■仏事センター / 新潟県新発田市荒町 1490
TEL (0254) 22-1320 FAX (0254) 24-5156

蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222	茨木建設(株) 新発市市長畑 284-1 TEL.0254-23-6851
飯豊電設工業(株) 新発市市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134	篠田労務管理事務所 新発市市新富町 1-5-9 TEL.0254-22-5649
(株)伊藤組 新発市市島湯 1273-1 TEL.0254-22-4176	新発田建設(株) 新発市市富塚 1942 TEL.0254-27-5711
(株)イノウエ 新発市市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056	島津印刷(株) 新発市市富塚 1419 TEL.0254-27-2101
(株)岩村組 新発市市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550	(株)新和組 新発市市米倉 1287 TEL.0254-28-5011
SODデザイン 高橋智志 新発市市新富町 1-1-3 ストライビル2階 TEL.0254-24-5121	大進電業(株) 新発市市佐々木 1895-9 TEL.0254-21-5000
小野寺税務会計事務所 新発市市大栄町 2-7-7 TEL.0254-22-3497	(株)大通 新発市市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191
(株)下越道路 新発市市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296	新潟ファームサービス(株) 新発市市五十公野 4104-1 TEL.0254-20-3828
(有)クサカバモーターズ 新発市市五十公野 4836 TEL.0254-22-6311	フジマ舗道(株) 新発市市島湯 4197-3 TEL.0254-26-5030
(株)じまホールディングス 新発市市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381	扶桑畜産(有) 新発市市米倉字鳥越 4666-1 TEL.0254-28-5136
小林税務会計事務所 新発市市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705	山田建設(株) 新発市市大友 3856 TEL.0254-25-0700
小柳産業(株) 新発市市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010	村上館湯伝 新発市市岡湯温泉 230 TEL.0254-32-2231

施設を作るだけでは機能しない。専門家による運営チームが必要

子ども・一般図書館には
新発田らしい特色を付加すべき

子ども・一般図書館は現図書館の倍、4千㎡程度を確保してほしい。とにかく閲覧スペースが書架スペースと同程度に広いこと、学習スペースが確保されていること、読み聞かせスペースや雑誌の平面展開（または子ども図書館での表紙展示）スペースが必須で、機能的には明るく、ワイファイなどのIT利用が十分にできることなどが基本的に求められる。

市長が言うように「阿賀北の中核的施設にして、他自治体からの利用者、交流人口を増やしたい」のであれば、子ども向けの図書館としての機能は相対的にかなり高くなければならない。子育て関連施設・資料・運営も、これもセンターと協力して課題解決型にする必要がある。また、ブックスタート、読み聞かせ、日本語教育特区とも連携すべきだ。その上で『食の循環によるまちづくり』を目標としている以上、農業や食・食品加工に関する資料の収集、観光案内所と連携しての入門的な新発田月岡（温泉）の観光案内関連資料を充実させるなど、テーマを設けて特色を出す必要もあろう。利便性を追求するうえでは、カフェ・飲



えんばーくには子育て支援センターと子どもの遊び場「あそび」がある

食スペース（新潟市ほんぽーと、紫波町オガール、武雄市武雄図書館など）や授乳室・障がい者向けトイレも必要だ。

現図書館は本館としての機能を残しつつ、仮に「歴史文化書館」などとして、駅前施設とは機能を分け、役割を特化すべきである。新発田市は、新発田藩時代に転封がなかったことや道学堂の伝統、戦災を受けなかったことで膨大な歴史資料が保存されている。これを整理・研究し、教育・福祉・産業（観光）に生かすことができれば、400年の歴史を持つ城下町・新発田の強みとなる。長岡市には「互尊文庫」という藩政資料など古文書の保存・研究施設があり、大いに活用している。研究のための利便性をあげて、新発田郷土研究会、古文書解説研究会、新発田城復元の会などの利用向上を図るべきである。同時に、大学や各地の学校図書館、地域図書室との連携強化も大切であり、長野県小布施町で行われている「まちなか図書館」（商店街の専門店に専門書を設置し和菓子屋さんにはお菓子の本、お茶屋さんにはお茶の本）なども参考にし、学力向上のみならず、娯楽の提供をしつつ、町の魅力アップに努めるべきだ。

財源としては、こちらも「地方都市リノベーション事業」の補助金交付が可能なのではないかと。市民にとって最も負担の少ない方法をよく検討してほしい。

最大の課題は準備時間の短さと、ソフト立案を含めた運営スキルの確立だ

負担を最小限にするため、市は平成27年度末の完成としている。建設工事は1年半程度かかるので、準備期間は少ない。市担当者は「中心市街地活性化基本計画」策定過程で、他自治体の成功事例を精査し、視察も繰り返して、短時間でベストに近い計画を立案したが、途中で事故があると「希望と夢に落ちた計画」（図書館関係者）は危うい。人的資源を集中投下すべきだ。

また、建設完成までに運営ソフトを煮詰めて態勢を確立しなければ、ただのハコモノで終わりがかねない。「市民の利便性を高めることに止まらず、周辺からの交流人口を増やしたい」（市長）と言うなら、すぐにソフト立案と運営態勢の準備をすべきである。公民連携で、図書館運営のほとんどを地元司書たちのNPOで賄う岩手県紫波町オガール、公営施設を民間が手伝う長野県塩尻市えんばーくなど、成功事例は事欠かない。



オガールの子どもの図書館。木造で「表紙展示」が特徴



駅前複合施設も新市庁舎もまちづくりのプロジェクトのひとつ

新発田市では、市長が駅前は口、新市役所は鼻、お城は目という比喩で何度も話したが、ようやく「中心市街地活性化基本計画」で全貌が見えてきた。「計画」を読むと、次は歴史・文化ゾーンとしてお城の辺りの整備や「水のみち」の整備も見えてくる。

市長は「住みよいまち日本」という私のスローガンを翻訳すると、人が住みたくなるまち＝人口を増えるまちとなります。それを実現するため、私は人口増につなげるべく産業振興と子育て支援を2本柱にしました。駅前複合施設建設もそのための手段です」と事業の一貫性を主張している。6月市議会では、「私は（活性化・賑わい創造を）諦めていない」と宣言し、市議会に徹底した議論と後押しを訴えた。確かな財政計画に裏付けられた強いリーダーシップを期待する。

海の日 フェスタ

7/13 土曜 ~ 7/15 月祝

大人気!の枝豆・トウモロコシが最盛期!!!

10時 START

まるでのよう... 縁日

とんとんの
・焼トウモロコシ
・フランクフルト
・かき氷などを振舞い!!

※先着200名様
※当日お買上げレシート提示で振舞い

13時半 START

絶対に負けられない戦いが「とんとん市場」にもある

とんとん野菜が当たる!!

キックターゲット

※中学生未満 ※先着200名様
※当日お買上げレシート提示で参加可能

農家の直売所

とんとん市場

●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
☎0254-20-2229

●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
☎025-274-2229

たけつねかい

武庸会

結成百周年記念事業募金・募集中!

ふるさと・新発田の誇り!堀部安兵衛を顕彰しましょう

《金額》

(1) 一般個人
.....1口 1,000円

(2) 法人・篤志家
.....1口 10,000円

(3) 武庸会会員
.....1口 10,000円

※可能ならば2口以上のご寄付をお願いします。

《納入方法》

(1) 実行委員会役員がお願いいたします。

(2) 下記武庸会事務局でも承ります。

(3) 口座振込も可能です。

新発田信用金庫 本店
普通口座 0467254
武庸会 嶋谷次郎八

武庸会事務局

新発田市中央町 3-7-2
まちな駅・新発田市観光協会内

TEL0254-26-6789

新発田市長
■二階堂 馨さん

市職員の給与削減分は 子どものために使いたい

東日本大震災の復興・防災減災の財源捻出のために、国は国家公務員の人件費を2年間に限り7・8%削減し、これに伴い地方自治体にも7月からの地方公務員の人件費の削減を要請した。これに対し、全国市長会など地方6団体は、本来地方が自主的に決定すべき人件費について、地方交付税減額を手段として、つまり「地方交付税を人質と

市民サービス低下を避けることを 第一に考え、職員給与削減を提案

——国からの地方公務員の給与削減要請に対し、全国市長会は反対しています。

「地方交付税はもと地方のお金、それを絞って地方を操作しようとするのは本来筋違い、地方分権にも逆行します。ある意味禁じ手です。」

——国からの地方交付税は「同じに住んでいても等しく住民福祉を受けられる」ためにあるもの。その原則に反した要請ですが、新発田市が国の方針を受入れる理由は？

「現実の給与削減にかかわる交付税減額分は約3億円、その分が歳入不足になれば、行政サービスが低下する可能性があります。しかし、それは絶対あってはならない。そこで、減額分を埋める意味で人件費の削減を依頼しました。」

——フスパイルズ指数(国家公務員の給与を100とした場合の地方公務員の給与指数)が106と高いことも関係していますか。

「給与が県内で一番高い状況で国の要請を受けず、市民にだけけい寄せがいくとすれば、それは市民の皆さんに申し訳ない。職員も難儀だろうけど、ここは一生汗をかいてほしいとお願ひしました。」

——フスパイルズ指数100を目標とした

する」かような手法での要請は認められないとして、反対している。しかし、新発田市は職員組合との協議を経て、今年7月から来年3月まで、職員平均6・1%(最大で約50万円、最少で約10万円)の給与減額を市議会に提案した。国の要請に添えるのは、県内では新発田市ほか、十日町市など4市だけである。この経緯を二階堂市長に尋ねた。

結果99・6という数字に落ち着いたと。総額で約2億2千万円、政策調整監査ラズで年間50万円近い減額です。」

「大きい。ただ、平均では6・1%減だけの上には大きく減額をお願いし、若い職員はなるべく少ない減額をお願いしました。」

——一種の傾斜配分ですね。

「子育て世代にはなるべく配慮しないといけないですから工夫しました。工夫と言えは削減した予算分は、子育て支援とか子どもたちのために使いたいと思います。」

——人件費を削減しても、その分交付税が減らされれば新たな財源にならないのでは？

「麻生大臣が昨年12月に人件費を減らして防災・減災事業に回すよう地方に要請した。削減した分は100%国が補てんするからと。ところが、新発田は人件費を削減する前から防災・減災事業はやっていますから防災・減災に回す必要はない。従って、私はその分を子育て支援に回します。」

——なるほど、それにしても地方交付税が3億減、人件費を2億2千万削減したとしても、6千万円足りないですね。

人件費削減案が議会を通れば、市民サービスを低下させなくてもいいです。」

——しかしこの減額は1年限りです。

「人口類似都市の三条・柏崎のフスパイルズは103前後ですから、頑張ったといえる数字ですが、おっしゃる通り、来年度は国も元に戻りますから、新発田も戻ります。その後、またフスパイルズを100に近づける努力は必要ですが、職員の理解なくして実現することはできません。だから子どもたちの未来のため、子育て支援に使う使い道を明確にして、納得してもらいたい。」

106である限り、市民から市職員の給与は高すぎるという批判は続くでしょう。そのことは職員に問いかけていかなければなりません。私自身は平均給与を他の自治体と近づけて減らすことによって、職員雇用を増やし、住民サービスの向上に努めるのが理想だと考えています。」

——今後の国の子育て支援策と連動し、第2子までの保育料無料化が視野に

——市長の政策決定には常に子どもたちのため」という基準があることがわがわがわがわが、国は第3子以降の保育料無料化、第2子の保育料半額補助を言い出しました。

「いいことです。子育て支援は図らずも新発田市が先行した形になりましたが、もしその政策が実行に移されれば、第3子までの保育料無料化に使ったお金を、国が補助しない第2子の保育料の残りの部分に充てることが可能になります。新発田市が第3子以降無料化に使ったお金は約6千200万円ですが、それが浮きます。仮に第2子の半額を国が持つとすると、残りの額、新発田市では9千700万円と試算されてい

ます。つまり新発田市が浮いた額にあと3千500万円上積みすると、第2子までの無料化ができるんです。」

——それが実現すれば素晴らしいですね。

「問題は、国がいつ本当に実施するのか、それと3千500万、どこから捻出すか難しい問題です。また、国が補助分を全額持たないなら、計算は違ってきます。まだまだ未知数というところです。」

図書館機能を持つ子育て支援施設建設 駅前周辺からの交流人口増もねらう

——駅前複合施設にも子育て支援、子ども・学生向けの図書館機能を持たせたいというところは子育て支援の二環と言えますか。

「そう。ただ、フスパイルズを賑わい創出、ひいては人口増というねらいもあります。」

——人口増はかなり難しいのでは？

「目標を高く掲げ、それを実現させる施策を打たなければ、人口減少にさし止めをかけることはできません。子育て支援や子ども・学生向けを中心とした一般図書館機能は周辺地区からの交流人口増にもつながります。」

——2月議会で、駅橋上花中止と整合性が取れないとの質問もありましたが。

「駅橋上花は利便性を高めて駅東西の交流を促進しようというつもりですが、対象はほとんど市民限定です。しかし、子育て支援とそれに連なる子ども・学生向けを中心とした一般図書館の複合施設は、市の東西交流に止まらず、市外からの交流人口の増加が見込めます。この交流人口の増加がやがて定住化につながるのとは自治体の同様の施設で実証されています。橋上化とは質的に異なり、大幅にすべれています。別の言い方をすれば、投資効果が極めて大きいということです。」

——ヴィジョンとして中心市街地活性化基本計画案を議会に提示しましたが、駅前複合施設建設・運営はその中の一つのプロジェクトで、設計費を議会に諮ったばかりです。市民を代表して、みなさん議論いたさないとはいけません。」



SOP
イチオシの味



1. アスパラさわやかレモン仕立てパスタセット 1,080円。本日のデザートはアスパラのレアチーズケーキ。パスタは7種の中から選べる。店主こだわりの原木椎茸のパスタもおすすめ
2. お店は木の温もりを感じる本格的なログハウス。カフェタイムには米粉や蕎麦粉のクレープ(420円)なども楽しめる。ドリンクはプラス200円
3. 広い畳の部屋は子連れのママにも気軽に来て欲しいと元保育師の奥さんの提案。奥には子どもが遊べるキッズスペースも。トイレにはオムツ替え用のベビーベッドも完備されている
4. 店主の渡邊さんと奥さんのぶさん
5. この大きな看板が目印!

L'Auberge (ローベルジュ)

野趣あふれる菅谷で
大地の恵みを存分に味わう

「農家レストランだからやっぱり野菜がいのちです」と語るのは店主の渡邊さん。なるほど、ランチセットを前にしてまず目につくのが色とりどりのサラダ。野菜が主というだけあってメインのパスタに引けを取らないこのボリューム。それが出来るのも自ら栽培した野菜や地元農家から常に旬を仕入れているから。
以前はアルビの試合に合わせケータリング車でナンピザ等を販売し「ごんべえ農園」の名で親しまれていた。四方山に囲まれたこの場所に開店して約2年。五感を満たす田舎の農家レストランで癒しのひとときを体感してほしい。

L'Auberge (ローベルジュ)
☎0254-29-3355
新潟県新発田市菅谷 1121-1
営/11:00~16:00(14:00~16:00 カフェタイム)
休/月2回木曜 収/23席 P/11台(共有)

読者モニタープレゼント
L'Auberge お食事券(500円分)
本紙感想・ご意見、住所・氏名・電話番号を明記の上、表紙左上の住所宛までハガキにてご応募下さい。抽選で10名様に「お食事券」を差し上げます。
※平成25年7月15日(土)必着